



## 本号の主な内容

- 2面 【学会の目・眼・芽】第6回 高梨雅明氏  
3面 【特集】下村先生の寄稿（6月号）に応えるべく  
「生活景の形成と景観整備」についての考え  
景観整備機構を活用した美しい景観創りほか  
4面 【協会だより】「全国造園フェスティバル」開催に協力を  
【緑滴】みどりの輝き / 【事務局の動き】



技術情報共有発表会の冒頭、あいさつする佐藤四郎会長

## 技術情報共有発表会を開催 学会と4総支部が発表

日造協が主催する「技術情報共有発表会」は9月8日、神奈川県横浜市技能文化会館で開催した。発表会は、会員が取り組む調査研究の成果である貴重な技術情報を、会員が共有・活用し、造園建設業のさらなる技術力の向上を図ることを目的に実施され、今回で3回目。前回から、(社)日本造園学会の協力、発表も行われ、当日は120人が参加。発表会後の懇親会ではさらなる情報交換が行われた。

### 全国から 校庭芝生化、街路樹、植栽基盤、壁面緑化 最新情報

発表会は冒頭、佐藤四郎会長が「関係各位のご協力により、開港150周年の記念すべき年の横浜を会場に開催することができた。午前中には関東・甲信総支部が石組みの講習を行うなど、盛りだくさんの一日だが、環境の世紀といわれる21世紀に、造園業界が主役となって、安全・安心で緑豊かな環境をつくるために、さらなる技術の向上を図り、その力を発揮してい

ただきたい」と挨拶した。発表は、①「鳥山北小学校校庭芝生化事業について」、関東・甲信総支部から岡野正和氏（株）岡野造園、②「街路樹剪定を科学する」として、中部総支部から國島隆重氏（株）立花園、③「植栽基盤診断士」として、九州総支部から藤田良司氏（株）九州造園、大谷神明氏（内山緑地建設（株））④「壁面緑化を効果的にするためのオオイトビの挿木試験について」、沖縄総支部の蛭田武彦氏（株）グリーンテックトールバル、⑤「学会技術報告集より」と題して、(社)日本造園学会から、藤原宣夫氏（岐阜県立国際園芸アカデミー教授）の5つについて行われた。

順孝著と、自ら学生と取り組んだ9月19日から静岡県で開催される「浜名湖立体花博」への出展作品づくりを通じて、植物に親しむきっかけの一つとして、モザイクカルチャーについて紹介。加えて、藤原氏が相田氏・足立氏と共著した「岐阜県恵那市坂折棚田における地域・学校・NPOの協働による棚田ビオトープづくり」について、パートナーシップのあり方として参考にしていただきたいなど、経緯や効果などについて語った。

その後、質疑応答を経て、濱野周泰東京農業大学教授が講師。校庭の芝生化は、行政・コンサル・施工、学校の計画段階からの協力が欠かせず、発表にあつた排水は特に重要。排水に関しては、九州の発表で街路樹についても発注の段階から仕様に盛り込まれているとの話で植栽基盤への行政の理解、施工者の努力を感じた。街路樹の剪定は、頂部優勢などの話があつたが、枝の内側に枝を作る盆栽の考え方を取り入れてもいい。オオイトビについて

は、試験材料の選定理由が質疑から明確になったなどとし、いずれも貴重な技術であるとした。

最後に高橋一輔技術委員長が、日造協にはこうしたいい情報がある。ともに活用し発展していきたいと閉会挨拶。その後、会場を移して、関東・甲信総支部の主催で懇親会が行われた。なお、発表の詳細は今後、広報日造協等で紹介予定。

## 樹林

「ニホンミツバチ」をご存知だろうか。在来種のミツバチで病気やダニに強く、社会問題にまでなった蜂群崩壊症候群（CCD）の救世主として期待されている。そのニホンミツバチを勤務先の社宅で飼い始めた。周りからは「ハチミツがとれて楽しそう」「ハチミツで刺すから危ない！」という反応にまじって「なんでミツバチを飼いはじめたの？」という質問も多い。キーワードは「生物多様性の見える化」だ。

◇

大学で造園学を学びゼネコンに就職した私を待っていたのは、「緑」に関する認識のギャップだった。学生時代はアメニティーという言葉を機軸として、緑の必要性・重要性を同級生や教員らと大いに語りあつた。しかし、実社会で課される命題は、化粧としての

修景植栽と、低コスト、低管理にかかわる事項がほとんどであった。

◇

このままでいいのか？と考えていた頃出会ったのが故イアン・マクハーグの「デザイン・ウィズ・ネーチャー」。科学的に土地を読む手法や自然の機能を定量的に評価する技術が紹介されて

## 生物多様性の「見える化」

鹿島建設(株)環境本部地球環境室 課長

山田 順之



◇

視され、緑への投資は後回しにされた。そこで、生物としての緑にしか生み出せない価値、つまり「生物多様性」を評価しその価値を顕在化（見える化）させる取り組みを開始した。

◇

まず着手したのは野鳥を指標とした都市のエコロジカルネットワーク評価

いた。

このコンセプトを基に地理情報システム（GIS）を用いて炭素固定やヒートアイランド緩和など緑の環境保全機能を定量的に評価するシステムを開発した。このシステムは評判となったが、依然として省エネやリサイクルなど直接的にコスト節約となる環境投資が重

技術、GISを用いて広域の土地状況を解析し、指標となるコケラやシジユウカラが生息可能な緑地を提案した。今まで抽象的な概念であつた「自然との共生」を、科学的アプローチで示すことが出来たため、クライアントの緑の役割に関する認識が進み積極的に検討してくれるようになった。

◇

毎月、幼稚園の子どもたちにミツバチと緑のお話（環境教育）を行っている。子どもはミツバチがハチミツを作っていること、イチゴなどの果物や野菜もミツバチが受粉しなければ実がな

らないことを初めて知る。そしてそれを親に伝える。当初、ハチは危ない！と考えていた親もいつのまにか応援してくれるようになった。

◇

生物多様性は自然の恵み（＝生態系サービス）の基盤であり我々の生活に不可欠なものだ。ミツバチはその価値を顕在化するための強力な媒体となっている。

来年、名古屋で生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が開催される。この会議にむけ生物多様性の経済価値分析手法（TEEB）の開発も進んでいる。従来の見た目重視の緑化にとどまらず、生物多様性の価値を見える化し、人間自身も様々な恵みを享受できる「生物多様性」都市を提案する。

そんな取り組みを今後とも進めていきたい。

## 平成 21 年度 全国労働衛生週間

本週間：10月1日～7日 準備期間：9月1日～30日

トップが決意 みんながつくる 心の健康・明るい職場



全国労働衛生週間 PR ポスター

平成21年度 全国労働衛生週間（10月1日～7日）に向けた準備期間（9月1日～30日）がスタートした。同週間は、働く人の健康の確保、増進を図り、快適に働くことができる職場づくりに取り組む週間。昭和25年に第1回が実施されて

は、試験材料の選定理由が質疑から明確になったなどとし、いずれも貴重な技術であるとした。

最後に高橋一輔技術委員長が、日造協にはこうしたいい情報がある。ともに活用し発展していきたいと閉会挨拶。その後、会場を移して、関東・甲信総支部の主催で懇親会が行われた。なお、発表の詳細は今後、広報日造協等で紹介予定。

以来、今年で60回を数える。今回のスローガンは、「トップが決意 みんながつくる 心の健康・明るい職場」。10月21日～23日においては、中央労働災害防止協会が主催し、さいたま市で「第68回全国産業安全衛生大会2009 in さいたま」を開催。21日の総合集会はさいたまスーパーアリーナで、犬飼基昭（財）日本サッカー協会会長が「DREAM これからの日本の社会におけるスポーツの重要性」と題して記念講演を行うほか、リスクアセスメント、機械・設備等、中小企業、メンタルヘルスなど、健康づくりや労働衛生管理に関わる様々な分科会が行われる。



学会の日・眼・芽

第6回

日造協の会員の皆さんには、前5回にわたり、諸先生方が執筆された造園分野の最近の研究課題の動向や造園学会の活動動向等のコラム記事をご覧になり、これまで学会を縁遠い存在として感じていた方も、身近なものに感じられるようになったと推察します。さらには、学会活動に取り組む信念や情熱も垣間見たのではないのでしょうか。

その一方で、依然として敷居の高さやまだるつこさを感じている方もおられると思います。なぜなら、学会における先見性のもとに認識される課題への取り組みやその成果などに皆さんが携わっている個別・具体の造園空間の創造、保土、管理業務との繋がりが、今一つしつくり結びつかないと感じる方も多いと思うからです。

正直なところ、長らく公園緑地行政分野に身を置いてきた私自身も、同様の感じを抱いた一人でした。改めて振り返ってみると、都市公園整備や緑地保全、緑化推進に関する政策の企画立案、推進の各段階において、ある課題への対応策を考える際の拠り所は、学会活動を通じて体系化された研究成果や学会員をはじめとする有識者相互の意見交換等により明らかにされた共通認識や科学的判断基準にあったこと、すなわち、その多くの部分は学会活動の成果に依存していたことに驚かされます。皆さんが携わる造園空間現場において諸課題への対応策を考える際にも、その拠り所として学会の活動成果が活かされている場合が多いのではないのでしょうか。

造園分野の研究成果が体系化され、誰もが納得できる共通の価値観や判断基準として昇華し、社会を動かすようになるまでには相当の時間と労力がかかります。フォーラムの開催に

よる情報の共有化、講演会の開催を通じた普及啓発、関係機関への政策提言など更なる努力が必要となります。学術研究活動のみならず、このような活動も積極的に展開しているのが造園学会です。その一環として第一線の現場の技術的諸課題に応えるための取り組みも展開されてきましたが、一部の方を除いて馴染みが薄かったことも事実だと思います。昨年7月の造園学会と日造協との包括的協定の締結を契機に、学会発行の「造園技術報告集」、日造協の「技術情報共有発表会」における連携が進み、学会の活動について皆さんの理解が深まりつつあることは、関係者の一人として喜ばしい限りです。

造園分野の発展を目指す上で、人材の育成は重要なテーマの一つです。このため、学会では、全国大会時の公開学生コンペや全国都市緑化フェアにおいて子どもたちを対象としたワークショップを開催するなど、次代を担う人材の育成に意を用いて取り組んでいます。また、社会情勢の急激な変化の中で、実社会で活躍する造園技術者が高い倫理観と専門能力を持って業務に携わり社会的使命を果たすことができるよう、技術者自身の技術や知識の更なる向上を図るための継続教育（造園CPD制度）にも力を注いでいます。

芽を見出し育てる学会の活動

平成15年11月に日造協をはじめとする造園関係諸団体が参画する「造園CPD協議会」が発足しました。そのご支援のもとに造園CPD制度は、平成16年5月から暫定的に実施され、平成17年4月には本格実施に至りました。それ以降、多くの造園技術者の参加が得られるよう制度の普及啓発活動や内容の改善が重ねられてきています。最近では、公共工事の入札契約における総合評価方式の導入・普及に伴って、配置

予定技術者の能力評価項目としてCPDの取り組み状況が設定されるなど、造園CPD制度の社会的重要性が急速に高まってきました。このような状況を踏まえ、学会内に設置された「造園CPD推進委員会」では、国、地方公共団体等に造園CPD制度の活用促進について、働きかけを行う方向で活動中です。

このように造園学会は、造園分野の進展を通じて社会の発展に貢献するため、経済社会状況の変化を先見的に捉えて造園分野が取り組むべき課題の「芽を見出す」、揺るぎない信念のもとに情熱を注ぎながら「その芽を育てる」、さらに造園関係者が持てる力を存分に発揮することを可能とする社会的基盤として「結実させる」ための諸活動を、労力を惜しまずに継続的に展開しているところです。

21世紀は「環境の世紀」といわれ、地球温暖化や生物多様性などに対する関心が高まり、国家的にも国内的にも社会のあらゆる面で環境保全活動が活発に展開される世の中になりました。緑豊かな安全で快適な環境に対する市民の関心、要望は非常に強いものがあります。その実現にあたり、緑の環境共生を現実のものとする造園分野の力が何よりも求められています。が、実際の事業の動きとして現れていないのが残念です。手を拱くことなく造園関係者間で情報を共有し、一層の連携を深め、その力を結集すべき時ではないでしょうか。

造園学会が担っている造園分野の力の発揮を下支えする役割や対外的なアピール力などの重要性について、ご理解いただければ幸いです。皆さんにとって決して敷居の高い存在ではありませんので、是非とも学会の諸活動にご参画ください。

高梨 雅明  
(社)日本造園学会副会長、  
(社)日本公園緑地協会研究顧問

景観整備機構を活用した美しい景観創り

街路景観の維持に街路樹剪定士が活躍

主たる業務とする施工業者 主たる官庁工事を主たる業務とする会社、個人庭園の設計・施工を行っている会社等であり、各分野において景観に対する考え方とらえ方は異なります。道路景観を構成する街路

看板の移動

位置図



樹については、日造協が街路樹剪定士認定制度を設けて美しい街路景観の維持に貢献しているところです。また、企業の工場緑化・屋上緑化等については一般市民に対して美しい造園空間を提供することが社員の意識向上に効果があり、企業のイメージアップにもつながることとなります。個人庭園の場合についても、庭園を整え、適切な維持管理をすることが心地よい街並み景観を創出することになります。このように、実際の現場を抱えている造園建設業は、日々の業務そのものが美しい景観造りなのです。



苦慮し、看板を下ろすもの、土木工事業に転換するものが出てきているのが現状であります。このような状況の中で、日造協のビジョンで示

2. 業界の現状

今日の経済不況の中、業界全体が売り上げの低迷に

指定を受けた日造協静岡県支部として最初に取り組んだことは、伊豆半島の尾根を走る総延長41kmの観光道路、伊豆スカイラインの景観調査・提案です。

4. 景観調査・提案
- 静岡県伊豆地区は、観光客の減少で低迷し結果として伊豆スカイラインの利用車両も減少しているのが現状です。道路管理者である静岡県道路公社に対して造園家としての現状調査・美しい道路景観創りに向けての提案をしました。利用客の増加を願う公社と美しい道路景観創りを目指す日造協の協働作業の開始です。次に作業の具体的内容について報告します。
- ①眺望を阻害する看板の移動
- ②現地の植生にそぐわない樹木の処理
- ③景観重点地区への遊歩道の整備
- ④平凡な景観地区への新たな植栽による景観創り
- ⑤広報活動等であります。
- ①看板の移動 記念写真スポットとしての位置表示の為であるが、富士山の眺望を阻害する。
- ②生活環境保全林整備事業として植栽され、当時は抵抗なく植栽されたヒマラヤスギ等外来種の処理。
- ③冬季の強風に耐えて独特な樹形が特徴なアセビ、ヤマツツジを鑑賞しながら水ヶ池までの散策路の整備。
- ④沿道における植栽を考慮るに、伊豆天城地区に自



外来種（ヒマラヤスギ）の処理



散策路の整備



植栽されたマユミ



てんぐす病の処理

生するマメ桜、ナナカマド、マユミ等の落葉広葉樹を提案しました。道路管理者の意見もありましたが県外からの来場者が伊豆の道路景観として何を求めるのかを説明し了解をいただいた。

⑤スカイラインに隣接する函南原生林内において、自然観察会を開催して、より多くの来場者が原生林に触れる機会をつくる。

5. 植栽提案についての留意点

観光道路である伊豆スカイラインの新たな景観創りのための植栽を考えると、来場者の求めている美しい道路景観とは伊豆スカイライン（天城高原）らしいさであります。伊豆スカイラインらしい景観とは、現地に潜在する植生を調査し、将来周辺の植生と一体

いただきました

「中」の寄稿の題「日造協の活動動向」がなされていたが、日々の活動と述べられていた。





「東品川海上公園」河岸両岸から屋上に連続する緑地

現在の都市に、生活の場としての良好な景観を形成するためには、多様に存在する生活行動の場に回遊性をもたすことが必要ではないだろうか。

都市には、商業施設、オフィス、住宅、公園等の様々な生活行動の場がひしめき合っている。これらを個別の景観要素として捉えらると、景観が話題となつて久しい現在の都市には、優れた景観構成要素となるものが多く存在している。

しかし、生活とは本来様々な活動が複合するものであるにも関わらず、都市においては労働や娯楽など、利用目的が単一になりがちである。また、関東圏においては、平均通勤時間が1時間を超えることから



新浦安「IL MARE」 建築デザインと調和し景観に個性をもたらす壁面緑化

また、「緑地」はそれぞれの個性をもちながらも、緑自体が統一感をもつ連続的な景観構成要素となり得る。このことから、優れた都市景観を形成する上では、広場、公園、街路等を計画的に連続する緑地帯として整備していくことが効果的であると考えらるが、建築や車道が密に存在する都市では容易ではない。

そこで「屋上緑化」や「壁面緑化」に代表される特殊緑化や都市環境に対応した植栽技術が必要不可欠になる。それらの技術の進歩による都市緑化が造園建設業が優れた都市景観の形成に寄与できることであると考える。また、各企業独自の壁面緑化システム等は、それぞれ特徴的な意匠をもち、緑地に個性をもたらすことになる。今後、これらのことから、優れた都市景観を形成する上では、広場、公園、街路等を計画的に連続する緑地帯として整備していくことが効果的であると考えらるが、建築や車道が密に存在する都市では容易ではない。

生活行動の場が集中する都市では、歴史や文化、地域の社会的コミュニティ等、様々な要素を捉えた上で、その個性が発揮され、地域固有の景観が形成されるべきである。それを実現する上で緑地は重要な要素であり、その緑地利用の可能性を最大限に発揮していくことが造園建設業の担う役割ではないかと考える。

(株)日比谷アメニス 景観環境部 豊崎修平

(株)小林造園 小林久仁嘉

## 良好な都市の景観を形成するには

### 景観構成要素に緑で連続性を持たせる

現在の都市に、生活の場としての良好な景観を形成するためには、多様に存在する生活行動の場に回遊性をもたすことが必要ではないだろうか。

都市には、商業施設、オフィス、住宅、公園等の様々な生活行動の場がひしめき合っている。これらを個別の景観要素として捉えらると、景観が話題となつて久しい現在の都市には、優れた景観構成要素となるものが多く存在している。

しかし、生活とは本来様々な活動が複合するものであるにも関わらず、都市においては労働や娯楽など、利用目的が単一になりがちである。また、関東圏においては、平均通勤時間が1時間を超えることから

また、「緑地」はそれぞれの個性をもちながらも、緑自体が統一感をもつ連続的な景観構成要素となり得る。このことから、優れた都市景観を形成する上では、広場、公園、街路等を計画的に連続する緑地帯として整備していくことが効果的であると考えらるが、建築や車道が密に存在する都市では容易ではない。

そこで「屋上緑化」や「壁面緑化」に代表される特殊緑化や都市環境に対応した植栽技術が必要不可欠になる。それらの技術の進歩による都市緑化が造園建設業が優れた都市景観の形成に寄与できることであると考える。また、各企業独自の壁面緑化システム等は、それぞれ特徴的な意匠をもち、緑地に個性をもたらすことになる。今後、これらのことから、優れた都市景観を形成する上では、広場、公園、街路等を計画的に連続する緑地帯として整備していくことが効果的であると考えらるが、建築や車道が密に存在する都市では容易ではない。

## 下村先生の寄稿(6月号)に応えるべく投稿して

「学会の目・眼・芽」第3回(423号)で、下村彰男先生が「生活景の形成と景観学会で生活景における景観のとらえ方を中心に検討していく必要がある」という議論仕事そのものが景観づくりである皆さんが、いかにお考えなのか是非うかがってみ



観光客が多く行き交う嵯峨嵐山周辺。小倉山をバックに道沿いの住宅は、庭を含め、景観を構成する上で大きな役割がある

歴史都市京都では過去に景観問題として京都ホテルや京都駅ビル等といったいろんな論議がありました。景観法をきっかけに京都市も新景観政策を打ち出したことや、世間でも景観概念が良い方向へ変化し、ようやく広く認識されだしているように思います。しかし、現実問題として

京都だけをとりあげても今後景観は良くなつていくと楽観視出来るでしょうか？建築物による景観形成の問題もありますが、景観の中でも我々が深く携わる公共緑地の管理を取ってみても、多くは入札により毎年業者が変わり意図した樹木の育成管理が出来なくなっているところが見受けられ

また、「緑地」はそれぞれの個性をもちながらも、緑自体が統一感をもつ連続的な景観構成要素となり得る。このことから、優れた都市景観を形成する上では、広場、公園、街路等を計画的に連続する緑地帯として整備していくことが効果的であると考えらるが、建築や車道が密に存在する都市では容易ではない。

生活行動の場が集中する都市では、歴史や文化、地域の社会的コミュニティ等、様々な要素を捉えた上で、その個性が発揮され、地域固有の景観が形成されるべきである。それを実現する上で緑地は重要な要素であり、その緑地利用の可能性を最大限に発揮していくことが造園建設業の担う役割ではないかと考える。

(株)日比谷アメニス 景観環境部 豊崎修平

(株)小林造園 小林久仁嘉

## 古都の景観整備について

### 地域の「らしさ」を引き継ぐ取り組みを

歴史都市京都では過去に景観問題として京都ホテルや京都駅ビル等といったいろんな論議がありました。景観法をきっかけに京都市も新景観政策を打ち出したことや、世間でも景観概念が良い方向へ変化し、ようやく広く認識されだしているように思います。しかし、現実問題として

京都だけをとりあげても今後景観は良くなつていくと楽観視出来るでしょうか？建築物による景観形成の問題もありますが、景観の中でも我々が深く携わる公共緑地の管理を取ってみても、多くは入札により毎年業者が変わり意図した樹木の育成管理が出来なくなっているところが見受けられ

また、「緑地」はそれぞれの個性をもちながらも、緑自体が統一感をもつ連続的な景観構成要素となり得る。このことから、優れた都市景観を形成する上では、広場、公園、街路等を計画的に連続する緑地帯として整備していくことが効果的であると考えらるが、建築や車道が密に存在する都市では容易ではない。

そこで「屋上緑化」や「壁面緑化」に代表される特殊緑化や都市環境に対応した植栽技術が必要不可欠になる。それらの技術の進歩による都市緑化が造園建設業が優れた都市景観の形成に寄与できることであると考える。また、各企業独自の壁面緑化システム等は、それぞれ特徴的な意匠をもち、緑地に個性をもたらすことになる。今後、これらのことから、優れた都市景観を形成する上では、広場、公園、街路等を計画的に連続する緑地帯として整備していくことが効果的であると考えらるが、建築や車道が密に存在する都市では容易ではない。

になるように植栽することです。来場者の目線で景観をとらえることが重要と考えます。

### 6. 提案の事業化

静岡県道路公社は、景観整備機構指定団体である日造協の提案を受け、マユミの植栽・ソメイヨシノ桜のてんぐす病感染枝の除去が事業化されました。今後継

### 7. まとめ・今後の課題

調査、提案を報告書に取りまとめるにあたり、内容

の充実を図り説得力を増すには、学術的な論拠、提案書としての内容の表現力、事業化に向けての可能性の検証が必要になります。即ち、学会、コンサルタンツ

協会、建設業協会の協働であります。この3者が一体となり業務の推進をするこ

また、「緑地」はそれぞれの個性をもちながらも、緑自体が統一感をもつ連続的な景観構成要素となり得る。このことから、優れた都市景観を形成する上では、広場、公園、街路等を計画的に連続する緑地帯として整備していくことが効果的であると考えらるが、建築や車道が密に存在する都市では容易ではない。

生活行動の場が集中する都市では、歴史や文化、地域の社会的コミュニティ等、様々な要素を捉えた上で、その個性が発揮され、地域固有の景観が形成されるべきである。それを実現する上で緑地は重要な要素であり、その緑地利用の可能性を最大限に発揮していくことが造園建設業の担う役割ではないかと考える。

また、「緑地」はそれぞれの個性をもちながらも、緑自体が統一感をもつ連続的な景観構成要素となり得る。このことから、優れた都市景観を形成する上では、広場、公園、街路等を計画的に連続する緑地帯として整備していくことが効果的であると考えらるが、建築や車道が密に存在する都市では容易ではない。

(株)日比谷アメニス 景観環境部 豊崎修平

(株)小林造園 小林久仁嘉



嵯峨嵐山周辺の住宅の庭

様式もかわり、情報が溢れ、地域性と言う考え方も薄れてきているように感じます。『らしさ』の考え方は人それぞれ違いとても難しいのですが、京都らしい景観、地域ならではの景観は必ずありそれは引き継ぐべきものだと思います。

そのためにも、冒頭に申しました公共緑地の管理につきましても、最近では樹木管理の複数年契約の必要性がいわれ、ごくわずかですが実際に複数年で管理されはじめました。また京都市の街路樹などは京都街路樹剪定士会という組織が京都市と協力し見本剪定を行い、業者が毎年替わつても京都の街並みに合った剪定ができるような取り組みは行われています。民間の施主に対してもこうした企業側の努力や特異性、優れた技術者の育成は必要不可欠になってきていると感じております。

もうひとつは、各地域に住まわれている人たちが自分たちの住む地域の景観・風景を再認識していただき、その必要性や『らしさ』の良さを感じていただきたい。当然年が経つにつれ街並みや考え方は変わっていくと思いますが、その地域にしかない良さをそこに住む人たちが引き継いでもらえらるような取り組みも個々の企業はもとより業界として今後も取り組んでいくべきではないかと考えます。

(株)日比谷アメニス 景観環境部 豊崎修平

(株)小林造園 小林久仁嘉



# 技能五輪全国大会開催へ

造園競技など、若手技能者の技能を競う第47回技能五輪全国大会・第31回全国障害者技能競技大会は、「いばらきで 未来へ競う 夢の技」をキャッチフレーズに、10月23日～26日・30日～11月1日、茨城県内の各会場で、それぞれ45職種・23種目の競技が実施される。

技能五輪は、国内の青年技術者の技能レベルを競うことにより、青年技能者に努力目標を与え、技能に身近に触れる機会を提供するなど、広く技能の重要性、必要性をアピールするもので、技能尊重気運の醸成を図ることを目的に開催。日造協からは第47回技能五輪全国大会競技職種別運営委員として松本透氏、競技委員として高杉忠美氏が実施に当たり、協力している。

催地の茨城県では、県を挙げて来県者を温かく迎える県民参加型の大会を目指している。

このうち、造園競技は、24、25日に、ひたちなか市総合運動公園で競技が行われ、スケジュールとしては、10月23日に競技会場を下見の後、開会式（日立市市民運動公園中央体育館）、26日に成績発表、閉会式が行われることとなっている。

造園競技への参加想定選手は30名で、石組み・石積み、大会の見どころは、競技となるが、そのほか、競技内容や職種の役割を紹介し、幅広い層の来場者が大

恒例となりました「全国造園フェスティバル」は、をメインテーマに多くの会

## みどりの輝き…

百年に一度といわれる現在の経済危機は、グローバル化など、世界経済の流れが行き過ぎて、歯止めを失ったことなどによるとも評されています。

そして、大きくは「環境の世紀」、「みどりの世紀」と呼ばれ、みどりの環境への希求が世紀のテーマともなっています。

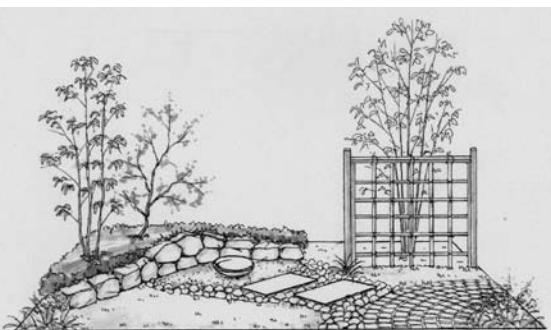
環境対策等に重点を置いたアメリカのオバマ大統領は、グリーンニューディール政策を打ち出し、わが国においても環境省は「みどりの経済と社会の変革」ということについて、民意、有識者等と意見交換中と聞きます。



緑 滴

施策があらゆる角度からなされていますが、40年の歴史を持つ日造協は「ビジョン21」を基軸に貴重な分野を担い、活躍されていくものと思いをもち、今までも力を合わせて難局を乗り切ってきた強さがあると

おおよそ「GREEN」の語義は「みどりの」、「環境にやさしい」、「若々しい」など広範ですが、本質的に地球が存続する前提が「GREEN」に象徴される環境にあるといえると思



第47回技能五輪茨城大会造園職種イメージ図 (提供：社日本造園組合連合会)



前回の技能五輪における造園競技のもよう

次代を担う小中学生・高校生等、若者が興味を持てるように工夫することとなっており、こちらの関心の高まりにも期待したい。

なお、大会は「天皇陛下御在位20年記念」の慶祝行事に登録されるなど、国を挙げての盛大な催しとなり、技能尊重の高まり、造園のアピールの機会となる

な、中央職業能力開発協会（http://www.javada.co.jp）まで。

## 全国造園フェスティバル

2009 開催へのご協力をお願い

恒例となりました「全国造園フェスティバル」は、をメインテーマに多くの会

おおよそ「GREEN」の語義は「みどりの」、「環境にやさしい」、「若々しい」など広範ですが、本質的に地球が存続する前提が「GREEN」に象徴される環境にあるといえると思

百年に一度といわれる現在の経済危機は、グローバル化など、世界経済の流れが行き過ぎて、歯止めを失ったことなどによるとも評されています。

そして、大きくは「環境の世紀」、「みどりの世紀」と呼ばれ、みどりの環境への希求が世紀のテーマともなっています。

環境対策等に重点を置いたアメリカのオバマ大統領は、グリーンニューディール政策を打ち出し、わが国においても環境省は「みどりの経済と社会の変革」ということについて、民意、有識者等と意見交換中と聞きます。

今、疲弊する人類と地球にまさ

私たちが営々と継承してきた造園施工技術、管理技術、造園のデザインセンスを多くの方にアピールすることで、造園技術を知っていただくともに、都市の幅広く広報されることを担

大坪貞保（日造協理事、社高知県森と緑の会運営協議会委員）

## 日造協賛助会員の紹介 13

KYB株式会社

剪定枝のリサイクル機器



汎用型樹木破砕機「スポットビバー」

を製造している当社は、トラック搭載でも設置型でも利用可能な汎用型樹木破砕機「スポットビバー」を発売しました。

この「スポットビバー」は二軸間調整型斜歯カッター採用により、低騒音で粉塵も少なく、市街地での安心作業に適しています。また省エネと同時にメンテナンス費用の低減も可能に

昨年の全国造園フェスティバルの様子

## 事務局の動き

### 【8月】

4(火)「広報日造協」編集会議

5(水)事業止副委員長会議

6(木)運営会議

・URとの意見交換会

11(火)技術情報部会

27(木)基幹技能者特例講習会(山口)

31(月)造園・環境緑化産業振興会事務局会議

【9月】

1(火)技術止副委員長会議

2(水)資格制度検討会議

3(木)運営会議

18(金)浜松モザイカルチ

ヤー2009開会式

・基幹技能者特例講習会(佐賀)

25(金)千葉県支部交流会

28(月)資格制度検討会議

29(火)厚生年金基金理事會

30(水)埼玉県支部交流会

・植栽基盤診断士に係る認定審査委員会

25(金)千葉県支部交流会

28(月)資格制度検討会議

29(火)厚生年金基金理事會

30(水)埼玉県支部交流会

・植栽基盤診断士に係る認定審査委員会

を「グリーン」をキーワードに、環境にやさしい、若々しい、美しい、健康的なイメージを

を「グリーン」をキーワードに、環境にやさしい、若々しい、美しい、健康的なイメージを

を「グリーン」をキーワードに、環境にやさしい、若々しい、美しい、健康的なイメージを